

JFPUG News 発刊にあたって

会長 初田 賢司（日立製作所）



JFPUG は 1993 年度、10 社でスタートしてから本年度で 17 年が経ちます。リーマンショック以降、不況の影響を受け会員数を減らしましたが、現在でも約 250 会員の参加を頂いており、業界でも一定の地位を築いている団体に成長致しました。これもひとえに会員の皆様の熱意と支えがあったことと深く感謝しております。

さて、このたび情報発信とコミュニケーションの活性化を目的に、当会の機関紙として「JFPUG News」を発刊することに致しました。3 ヶ月ごと、来年度からは年に 4 回、会合の様子やイベント、運営の情報などを皆様のお手元にお届けしたいと思います。

発刊にあたって、JFPUG における情報発信について考えてみました。ソフトウェアメトリクスについて皆様の関心がある分野は、以下のようなものと思います。

- ①「どう測るか」
- ②「どう定着させるか」
- ③「測った値をどう使うか」

これらに関連する技術動向や標準化動向、会員企業で実践しているノウハウ、参事会での検討結果、関連するイベントの情報を得たいということではないでしょうか。

まず「どう測るか」ですが、計測ルールを共有し、誰が測っても同じ計測結果が得られるようにすることは、JFPUG の使命です。業界発展のためにも大事なことです。参事会が主導して情報発信をしていく領域です。

次の「どう定着させるか」については、組織内への計測方法普及や計測データの収集方法への関心が高いと思います。これらは、企業の取り組み事例が参考になる領域です。

最後の「測った値をどう使うか」については、JFPUG ビジョンに掲げた「見積り精度の向上」、

「品質の向上」、「開発期間の短縮と生産性の向上」、「リスクの低減」、「受発注の適正化」、「利用者の満足度の向上」へのメトリクスの貢献が関心事です。ベンチマークデータを収集・分析している団体や各企業にナレッジが蓄積されている領域です。

これらの情報は、現在、定例会合やワークショップでの発表や報告という形で発信されていますが、欠席された会員には伝わらない、首都圏での開催に偏っているなどの問題もあります。

またもっと JFPUG の特徴を活かした活動につなげていきたいと思っていますが、まだ持てる力を十分発揮できていないのが現状です。JFPUG は、業界の中でも大変ユニークな団体です。特定の企業や団体のバックアップはなく、中立性を保っております。また、参加頂いている皆様のバックグラウンドは、ユーザ、ベンダ、学識経験者、コンサルタント、教育やツールベンダなど幅広く、当会の裾野の広さを感じます。こうした中立性と多様性をうまく活かすことができれば、バランスの取れた議論を通して、大きな成果につながることに期待も高いと思います。

皆様が情報を発信する理由は、技術の発展に貢献したい、フィードバックを受けたい、ビジネス的にポジションを獲得したいなど様々だと思いますが、発信される情報は貴重です。さらに新しい情報を産み出すきっかけになります。こうしたループを作るために必要になるのが、情報共有の仕掛けであり、Give & Take の促進です。これを推進することは JFPUG の役割でありますし、JFPUG が行うことに価値があると感じております。

今回の機関紙の発刊がその一助となり、全会員にとって役立つものになればと願っております。来年度からは、体制を整え紙面を充実させていきます。皆様の積極的なご協力並びに情報発信をぜひお願い致します。

●2010 年度第 3 回会合

2010 年度第 3 回会合は、2010 年 10 月 29 日(金)に「はあといん乃木坂」で開催されました。今回は長年使ってきたはあといん乃木坂が 12 月末で閉館となるため、同会場を使つての最後の会合となりました。

・参加人数：70 会員、93 名

アジェンダ

- (1)技術講演 (株)JAL インフォテック
神谷 淳一氏 箱井 昭夫氏
「ファンクションポイントを活用した生産性・プロジェクト実績データを現場にフィードバックする取り組み」
- (2)技術講演 富士通(株) 河野 太基氏
「システム基盤における上流工程での非機能要求合意を目指して」
～「非機能要求グレード」の紹介～
- (3)報告 普及推進担当役員 高橋 光裕氏
「ISBSG 出張報告」
- (4)報告 会長 初田 賢司氏
「ProMAC2010 出展報告」
- (5)連絡事項
 - ・中間会計報告
 - ・CFPS 試験及び講習会の案内
 - ・CPM4.3 翻訳状況について
 - ・はあといん乃木坂への感謝
 - ・主婦会館プラザエフの紹介



[会場風景]

◇技術講演 箱井 昭夫氏、神谷 淳一氏

(JALインフォテック)

「ファンクションポイントを活用した生産性・プロジェクト実績データを現場にフィードバックする取り組み」

JAL インフォテック エアライン事業本部では、2008 年の CMMI アプレイザルにおいて指摘された組織プロセスにおける弱み・課題に対応する活動の一環として、ファンクションポイントを活用した見積りについて改善を行った。



従来から事業部の見積り標準とプロジェクト側で複数方法により見積もった結果とを照らし合わせ、妥当性確認をしていた。しかし、この作業はプロジェクトごとに独自で行なわれており、組織的な取り組みになっていなかったことをアプレイザルで指摘された。

これに対し、今回プロジェクト側が行なう見積りの妥当性確認を支援する目的で、組織的に蓄積されているプロジェクト関連情報（案件領域、利用したアプリケーション、プロジェクト特性、FP 規模や工数の見積り値／実績値など）をデータベース化し、必要な検索ができるようにした。

このデータベースは各プロジェクトに対してツールの形で提供している。これによって各プロジェクトでは、開発において使用された情報を蓄積し、これを見積り段階で有効利用するという新たな見積りのサイクルを回すことができる。また、プロジェクトに関係する情報が組織的に維持管理されている状態の中で見積りの妥当性を確認できるようになった。

この検索システムはリリース後間もないため、今後はより多くのプロジェクトで利用されるよう現場への周知活動が必要であるとともに、現場からの改善要望に応じていく。

また、検索機能だけでなく見積りそのものを支援するために過去データを用いた予測機能をこのシステムに取り込んでいく予定である。

(報告者 樋口潔)

◇技術講演 河野 太基氏(IPA/SEC 非機能要求グレード WG 委員 富士通株式会社)

「情報化システムの非機能要求を見える化する非機能要求グレード ～システム基盤における上流工程での非機能要求合意を目指して～」

情報システムはビジネス・社会活動を支える基盤であり、活動の発展に伴い要求も高度化している。それに伴い、社会的に情報システムの「品質」に対して注目が集まってきた。情報システムの品質向上には要件定義等の上流工程の改善が効果的だが、この工程はお客様と開発ベンダとの共同作業であり、改善の難しい分野であった。



特にお客様から提示される非機能要求は、個性が強かつ曖昧であり、認識ギャップが発生しやすく、後々システム開発・運用のリスクとなっていた。本非機能要求グレードは、その認識ギャップを埋めるべく開発されたものである。

「非機能要求グレード」のメリットとしては、非機能要求を「早期に」判断できること、「誤解無く」提示・確認できること、「漏らさず」確認できることである。そのため、非機能要求グレードの基本コンセプトを以下の3つとしている。

- (1) レベルによる要求項目の共通認識
- (2) グレードによる要求項目の選定
- (3) 段階的な要求項目の詳細化

(1)では、各非機能要求に対しメトリクスとレベルを定義したグレード表を作成した。このグレード表を基に非機能要求を確認すると、お客様にとってはレベル感が提示されているので要求を出しやすく、かつ開発ベンダも要求を確認しやすい。

(2)では、障害時に社会に与える影響により3つのモデルシステムを定義している。モデルシステム毎に、重要項目の選択レベルと条件をグレードとして定義し、お客様の非機能要求と要求項目のマッピングを実施しやすくしている。

(3)では、モデルシステム、グレード、レベルの考え方をを用いて、非機能要求を段階的に詳細化する手法を提示している。また詳細化への検討順序を可視化するため樹系図を用意している。

本取り組みはお客様による評価や、パブリックコメント募集を通じて幅広い方からの意見を取り入れ広く利用できる成果とした。またユーザ企業からも有効と評価していただいた。当初は「非機

能要求の見える化」という課題に共感したベンダ6社から始まった検討だが、現在はその活動主体をIPA/SECへ移管している。

今後はグローバル展開や業務部分の非機能要件にも着手していきたい。

(報告者 藤貫美佐)

◇ISBSG ワークショップ 2010 参加報告

2010年10月6～8日に、ISBSG本部(豪メルボルン市)で開催されたISBSG(International Software Benchmarking Standards Group)の年次ワークショップおよび年次総会に、高橋がJFPUG代表として参加した。以下にその次第を報告する。

(1) ISBSG の現状

ISBSGは、豪ビクトリア州政府の職員であるTerry Wright氏を初代



長として1996年に設立されたITプロジェクトベンチマーキングに関する非営利団体であり、世界各国のソフトウェアメトリクス団体が会員となっており、世界中からITプロジェクトの実績データを収集し、データおよび各種分析レポートの頒布、ベンチマーキングやプロジェクト見積りに関する書籍の出版などを行っている。現在の加盟団体は、以下の11ヶ国12団体である。

	豪: QESP		中: CESI
	芬: FiSMA		独: DASMA
	印: NASSCOM		伊: GUFPI-ISMA
	日: JFPUG		蘭: NESMA
	西: AEMES		瑞: SwissICT
	米: IFPUG, SSCI		

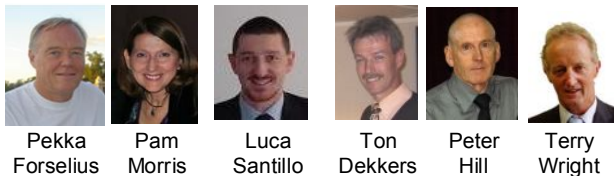
(芬:フィンランド, 西:スペイン, 瑞:スイス)

最近の異動としては、英(UKSMA)、韓(KOSMA)が脱退し、中はCSBSGが脱退してCESIが加入した。

ISBSGは、豪州法に基づく非営利法人であり、会員団体の代表から選任される役員:

- ・会長: Pekka Forselius氏(芬:FiSMA)
 - ・副会長: Pam Morris氏(豪:QESP)
 - ・管財役: Luca Santillo氏(伊:GUFPI-ISMA)
 - ・前会長: Ton Dekkers氏(蘭:NESMA)
 - ・一般役員: 主要各国団体の代表者各1名
 - ・非常勤CEO(兼事務局長): Peter Hill氏(豪)
- を中心に運営されている。

運営スタッフは、Administrator（匿名性管理者）1名、リポジトリ管理者（新規開発および改良開発、保守および支援の両リポジトリに各1名）、マーケティング担当1名、統計アナリスト1名の計5名で、Hill氏を含む全員が稼働50%未満の非常勤である。



(2) ISBSG ワークショップ 2010

ISBSG ワークショップ（WS）は、ISBSG のアクティブメンバーが ISBSG の今後の運営や活動内容について集中討議・作業する場であり、例えば JFPUG 役員会を3日間の合宿形式で開催するようなものである。したがって、一般的な学協会イベント同様に情報収集のつもりで参加すると出張報告に書くべき成果がなくて苦労することになる。ただし、これだけではあまりにも味気ないので、毎回、ホスト国（団体）が WS 参加者一同を招待して WS 前日にミニイベントを開くことが慣例になっている。

今年のワークショップでは、7カ国15名（豪:7、中:2、芬:1、日:1、伊:1、蘭:2、米:1）が出席し、以下のテーマで分科会討議を行った。

- Project Management book
- Marketing
- Benchmarking Standard
- Maintenance & Support
- Data exchange
- Products

(3) 所感

ISBSG は、世界規模で活発な活動を続けているが、その収支予算規模はなんと JFPUG のわずか1.5倍程度であることに気が驚いた。ただし、JFPUG が予算の大半を会議費（会合運営費）に費やしているのに対し、ISBSG では支出の大半を CEO を含むスタッフの人件費が占めている。活動の初期の同好会時点には草の根ボランティアでの情報交換会合中心の運営でもよかろうが、普及事業を拡大していくためには JFPUG も今後、コンスタントに成果物を生み出すための人手を確保する必要がある。

（報告者 高橋光裕）

◇プロジェクトマネジメント国際会議(ProMAC) 出展報告

2010年10月13日から15日に幕張メッセで開催された第5回プロジェクトマネジメント国際会議(ProMAC2010)にセッションスポンサーとして出展致しました。ProMAC2010は、プロジェクトマネジメント学会が主催するアジア・パシフィックのプロジェクトマネジメントの国際会議です。約1,000人が参加し、盛大に開催されました。

出展の狙いは、JFPUG 国際化の一環としてアジア各国のメトリクス団体とのコラボレーションを呼びかけることでした。JFPUG は、開催期間を通じて展示ブースを出展しました。10月13日のパーティではショートスピーチの機会を与えて頂き、10月14日には、JFPUG スペシャルセッションと題して、林光信氏(会計担当役員)と高橋光裕氏(普及推進担当役員)が講演しました。セッションには、約40人が参加し、講演に引き続き活発な討論が行われました。

即、具体的な成果に結びつく訳ではありませんが、インド、インドネシア、シンガポール、ネパールなどの関係者が関心を示してくれるなどの成果がありました。JFPUG の国際的なポジションを高めるために、今後とも継続的に活動していきたいと思っております。

またこれを機に JFPUG パンフレットの英文化を行いました。日本語のパンフレットとともにホームページに掲載しましたので、JFPUG の PR にぜひご活用下さい。

（報告者 初田賢司）

●お知らせ

◇中間会計報告

2010年度上半期（4月1日～9月30日）の収支は、収入8,757千円（91%）、支出5,171千円（79%）となりました。

収入未達の要因としては退会会員の増加による年会費収入未達（89%）と教育コース受講者減少による受講料収入未達（67%）が大きく、出版事業で予算以上の収入（184%）があったものの補填するには至りませんでした。

但し、作業部会の効率化、海外団体連携費用の圧縮などで支出を抑えた結果、残高ベースではほぼ予算通りの15,113千円（104%）となっており、会の運営資金は十分に確保されております。

◇CFPS 試験及び講習会の案内

2010年度のCFP国内試験(11月28日に実施)と、試験に先立つ事前講習会(11月8日に実施)について紹介しました。事前講習会はCPC委員会が発行しているFP問題集を基にした実践的な内容で、実際に試験を受ける方だけではなく、将来試験を受けたいと思っておられる方にも試験内容を知る上で有益な講習会となっております。

今年度の試験は終了しましたが、JFPUGでは毎年下期に毎年1回のペースでCFPS国内試験および事前講習会を実施しますので、是非皆さんご参加下さい。また、PLOMETORIC社においてPCベースのCFPS試験が実施されております。ただし現在は英語版しか提供されておられません。日本語版の実現のためには年間60名の受験者が必要です。是非会員様におかれましてはFP計測の中核となっている方々のCFPS資格取得を推進し、日本国内での普及にご協力いただければと思います。

◇CPM 翻訳情報

CPM 4.3 Part1の暫定版を10月27日に公開しました。今後、Part2以降の校正作業を行い、終わったところから順次公開予定です。

また、翻訳参事会メンバーを随時受け付けております。積極的なご参加をよろしくお願ひします。ご参加いただける方は、

jfpug-office@jfpug.gr.jp

までご一報下さい。特に word のセクションの切り方や体裁を整えるスキルを持った方大歓迎です。

●緊急訃報 FP法の創始者が世界

ファンクションポイント法の創始者、Albrechtさんが2010年11月10日(水)、ノースカロライナ州モアヘッド市の自宅でお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りします。

【故人の略歴】

Allan J. Albrecht (オールブレクト) 1927年、米国生まれ。1949年よりIBM社に在籍し、連邦政府のミサイル防衛システムを始め、多くのコンピュータシステムの開発に携わる。1979年に現在のIFPUG法の原型となるファンクションポイント法を開発し、国際的な普及活動を行う。引退後もSPR社の顧問を勤めるなど、ソフトウェア工学界に大きな影響力を持った。近年は、ノースカロライナ州モアヘッド市に移住し、仲間と趣味のゴルフを楽しむなど余生を送っていた。享年83歳。

◇はあといん乃木坂殿への感謝決議

JFPUGは、1995年から15年間、はあといん乃木坂殿を定例会合、教育など各種イベントの会場として利用させて頂きましたが、残念なことに本年12月をもって閉館となります。

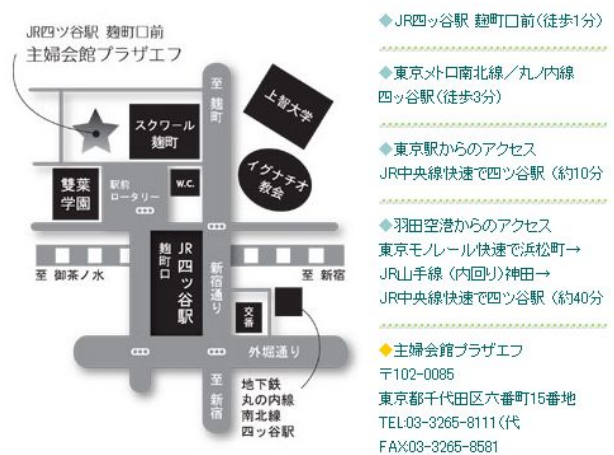
最後となる10月の定例会合では、はあといん乃木坂殿への感謝決議を全員一致で採択し、長年に亘りJFPUGを支えて頂いたことに対して感謝状並びに御礼の品をお贈り致しました。

◇主婦会館の紹介



長年会合等に使用してきたはあといん乃木坂が12月末で閉館となるため、2011年以降は主婦会館を使用することにしました。詳しくは次回以降の会合等の案内を参照ください。

名称： 主婦会館プラザエフ


連絡先、アクセス： 下図を参照ください。



◇今後の会合予定

- (1)2011/01/21 (金) 14:00-17:00 
- (2)2011/04/22 (金) 13:00-17:00 
- (3)2011/07/22 (金) 14:00-17:00 (仮)
- (4)2011/10/21 (金) 14:00-17:00 (仮)

場所：主婦会館(四谷)

凡例  : 会合終了後、意見交換会

◇今後のCPM/COSMIC教育スケジュール

JFPUG ホームページを確認ください。

◆◆◆編集後記

- ・初めてのニュース発行で手探りの状態でまとめました。是非皆様からのフィードバックを反映してより良いものに改良していきたいと思っております。皆様からの感想や、改良提案をお待ちしています。
- ・長年会合等に使用してきたはあといん乃木坂が12月末で閉館になるため、2011年からは四谷の主婦会館を使用することになりました。また新しい場所で歴史を作っていきましょう。(M.I.)